
IS に変革者・・・の怠け者

紅刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ISに変革者・・・の怠け者

【Nコード】

N7469Y

【作者名】

紅刹那

【あらすじ】

入学式に向かう途中電車にはねられて死んでしまった大学生がISの世界に転生するお話です。
処女作&駄文しか書けないので精進していきます。

プロローグ

(だるい・・・)

3月4日 電車の中には、周りはスーツを着ているサラリーマンや新学期だ、と言っている学生がいたりする。その中で外を眺めている18歳の青年はぼやいていた。

彼は、普段電車は使わず自電車で中学から高校まで、通学していたが今年から大学生で今スーツを着ている。彼は大学の入学式に行く途中なのだが、新たな期待に胸を含ませるとかではなく、入学式がただめんどくさいと考えていた。だって長ったらしい校長のあいさつなんて嫌だろ？

どうやって長ったらしい校長のあいさつを潰すか考えている木村きむら暁あきであった。

(どうしようかな…あ、ここで乗り換えだ)

電車から降り 階段を上がり 視覚障害者誘導用ブロックの所で
電車が来るのを待つ

(あ きたきき「ドゴッ」……………え?)

突然後ろから押さて落とされる感覚におちる、そして、目を動かすと電車が猛スピードで……

「怒ってないんですか？」

怒れば生き返えさせてもらえたりするの？

「あなたの体は、グシャツつとつぶれてしまっているので不可能です…:すいません」

じゃあ、どうしようもないじゃん。連れて行かれるのは天国？地獄？

「いえ、あなたが行くのは別の世界です。こちらの不手際で死んでしまったわけですからもう一回、人生を歩んでもらいます。」

えーだるい魂消滅とかじゃねえの？

「嫌なんですか？」

だってこいつのって死亡フラグ満載な所に飛ばされるんじゃないかね？

「そうですね、そしてもう決まっていますよ。」

なーんか死亡フラグな予感

「そうですかね？インフィニット・ストラトスですよ、あなたが飛ばされる世界は。」

ISという女性しか動かない機械ができて、主人公がISを動かしてしまっただってというアニメ化された奴？

「はい」

まあ ほとんど現代社会とおなじだよな 死ぬ確率はそんな高くないかな？

「そうですね。今回こちらの不手際なんで能力や願いが5つ与えることができます。あ、今までの記憶は引き継いでいるので、あと、もうこちらで主人公と同じくIS動かせることになっていますので、かなえられる願いは4つですね。」

え？なんで動かせるの？

「え？ 先輩方は転生者が来たときに一番多い願いがこれだったので、早めにつけてしまいましたがいけませんでした？」

まあ、憧れるけどさメンドクサイことが起きそうだね…まあいいや、1つ目は開発チート 2つ目はGNDライブの入手、えーとアニメで使っていたオリジナルのやつ5つで。

「はい。3つ目は？」

3つ目は経験値急増蓄積かな？

「えーと、すみませんどういった能力ですか？」

RPGのゲームとかだと経験を積んで強くなるけど、俺の場合人の何倍の速度で経験を溜めることができ、何年たっても衰えないってところかな。

「はい、アニメとかラノベとかで見なかったので、どういう能力かわかりませんでした。」

そして

「がんばりましたね、元気な男の子ですよ。」

本当に転生したよ俺

今幼稚園児です

俺が転生してから4年たった。え？その前はないのかつて？無理だつて赤ん坊のやれることつて寝る食べる寝るぐらいしかないんだ（食べるじゃなくて飲むか？）それに作者にそんなこと出来るわけないだろ？ただでさえ面倒なのに……って作者つて何だ？まいつか。

俺の名前は前世と同じく木村 暁あきだ。今は保育園児である。

で神様からもらった能力だが積極的に使ってない、使う気もない。というのも1つ目の能力開発チートは、ISができるのなら技術者でもなれば食っていけるだろうって思ったからだし、2つ目のGNドライブは、そりゃ開発チートもらつてんだからガンダムつくってみたいが、4歳児がそんなの持っていたらおかしいので前に父親に買ってもらったGPS付き携帯に入っていたアドレスで神様と連絡を取り「必要になったら届けてくれる？」とお願いしてみた。で「はい。4つ目の願いには入りませんのでしんぱいしないでくださいね」といつてきた、

「話とか聞いてもらつてもいい？こつちで事情知っている人とかいないからさ」

「けっこつこつちは暇なことが多いのでいつでもいいですよ」といつてきてくれた。

そしてまだ、4つ目の願いは考えていない。

3つ目の能力の経験急増蓄積は、最初からチート能力持つていて使ったところをみられたり、ばれたりすると厄介事になりそうだから

ら、周りにいる園児たちとほぼ身体能力は同じである。

まあ、荒事が起きた時逃げられるように足は鍛えているが。

で、今木陰で寝転んでいる。だって実際年齢20歳以上のやつが4〜6歳児と一緒に遊ぶつて、気が滅入る。というわけで今日もねy」あの・・・」・・・なんだよ

side 織斑 千冬

きょうは としたのひとたちとあそんでみよう とせんせいが
いって みんなぐるーぷをつくりはじめた。わたしは たばねちゃ
んとぐるーぷになったけど ほかみんなはこっちにこようとしない

せんせいがこっちにきて「ねえ」とはなしかけてきた けどたば
ねちゃんは「うるさい」っていったでもせんせいはつづけて「あの
木の下にいること組んできてくれないかな？あの子も友達いないの、
だから友達になってあげて？」ってせんせいがいった。

だからいつもひとりでいるのかな？ おともだちがすくないのな
らすくないものどうしおともだちになれるのかな？

わたしのせいでこわがれるかもしれないけど。

side out

あーなんか二人組がこっちに来て黒髪の女の子が俺を見下ろしている

「わたしはおりむら ちふゆっていいいます。」

・・・おりむら ちふゆって織斑 千冬か？原作キャラじゃん・
でも自己紹介されたら、返さんとあかんよな 俺は起き上がった

「あー木村 暁記憶の片隅にでも置いていてくれ。」

「ほらたばねチャンもあいさつして。」

「えー めんどくさいよー」

・・・うん確定 後ろのやつは篠ノ之 束だろうな

「それに こんなやつともだちになつたて いいことないよ。
おたくで きもくて いんしつで ねくらそうだもん。」

毒舌設定はこの頃でもあるらしい、きもい以外は同意してもいいが俺ってそんなにきもいだろうか？

「で何の用？」

とりあえずかかると面倒なことになりそうだ

「おともだちになるっ？」

「どうしたら友達になれるの？」

前世から思っていたことだがどこからが友達なのだろうか？そのことをクラスメイトに聞いてみたら一緒に遊びに行くのが友達・他人の家に上がって遊んだり泊まつたりするのが友達、中にはしゃべったら友達というやつもいた。

俺は、誰かと遊びに行ったこともないし、誰かの家に行ったこともない、しゃべったのは学校での発表での意見や必要事項の連絡ぐらいだ。

まあ 寂しい奴だと思えばいいけどさ、束が言ったこともあながち間違いないじゃない。(アニメとか好きだしな)

「あそべばいいのかな？」

「何かしたい？」

「おまえみたいなのくらくらとあそぶなんてありえない。」と言って腕に抱えたノートPCを立ち上げる束

「わたしは…その…したいことがおもいつかない。」と言って束のほつを見る束が「だったらたばねのPCみればいいよ！そうしよ！」「と強引に袖をひっぱり隣に座らせる。

「じゃ 俺は寝る。」とお「おまえにはなにもいってない」あつそうですか

こつして帰る時間になるまで俺は寝て 織斑 千冬は篠ノ之 束のPC画面を見続けていた。

夜

「もしもしー 神様今ひま？」

『はいはい暇ですよー。異常がなさ過ぎて新しい世界でも作るうとしてました。』

「暇だからって新しい世界つくるって大事じゃないのか？」

『いえいえ、ドラえもんの映画にでてきた創世セットで作るので半日あれば十分です。』

「・・・ドラえもんが神の頂点なのか？」

『まあ 死神だったり創神だったりいろいろいるんですよっちは。』

「ブリーチとかな世界もあるのか？・・・ってそういうことじゃなくてさ」

『何なんですか早くしてください、こっちは急いでいるんですか』
『』

「・・・さつき暇だから世界つくるうとしてたとか言わなかったか？」

『後輩がちょっとへましたようです。でそのサポートしなくちゃならなくなりました。』

「ああ、じゃあ 今日原作キャラにあっただけどさげな『原作ブレイクしてかまいませんよ?』なんでさ?」

『あなたがいるのは原作とは違いISの並列世界ですから、まあ原作ブレイクしてしまっただけは何が起きるかわかりませんが。』

「ふーん」

『あと原作とは少し違ったことが起きるかもしれません。』

「たとえば?」

『そうですね。織斑千冬と織斑一夏の年齢差が違ったり、原作ではミサイルが飛来してくる数が200ではなく多かったですりするかもしれません。』

「そうなんだ。まあ何が起きても巻き込まれなきゃいいだけだし、後輩助けてきてあげなよ神様」

『一様名前があるので言っときますがアテネです。神様では味気ないですし信仰心もないでしょ?』

「当たり前やがないか。命は助けと貰って感謝はしてるけどなんで信仰せにゃならん。というか手違いで殺されたし。」

『まあ、信仰があたってもなくてもどつでもいいんですけどね、仕事ですし。』

「まあ、仕事がんばってアテネ……って首都との名前じゃね？」

『被っているだけですよ。では『ピッツーツー……』

「原作ブレイクねえ……まあ関係つくったところで大きくそれることはないだろうな。」

今幼稚園児です (後書き)

こんにちは 紅刹那です

今は竜頭蛇尾の勢いで書いてます(それじゃあかんたる

こんな駄文しかかかない作者ですがどうかよろしく願います)
それって一番最初に書かにならんのじゃね？

幼稚園の日々

幼稚園では前まで1人で木陰で寝ていることが多かったが、ここ最近では1人ではなく3人になっていた俺と織斑と篠ノ之である。

あれから3日くらいたつが何か進展があるわけではなく、俺は寝て、篠ノ之はPSのキーボードを叩き織斑はPS画面を見つめる。で他の園児たちは、遊具で遊んだり砂場で小山を作っていたり、でときどき織斑が行きたそうにそわそわしている。

「混じりたかったら混じってきたら？」

「だってみんなこわがるから・・・」

確かに織斑はツリ目だから睨まれているようにも見える。だったら・・・

「ちょっと来てくんね？」俺は立ち上がって園児達が多い砂場に向かう

「え？」

織斑は戸惑いながら俺についてきたそして

「はい、ちゅーもーっくー!!」

といって園児がこちらをみると同時に織斑の後ろに回り（足鍛えておいてよかった）目のあたりの皮膚を上、横、下とひぱったり回したりしてみる。

目が怖いのなら目を面白くしてやればいいんじゃない？って考えたわけだ俺は。そして

「「「「あはは」「」「と園児達は笑い「おもしろいかおー」「もういつかいやって」「とか言ってきた。

「ねえ、いつしよにあそぼ？」と誰かがいい

「うん！」

ふー失敗したらどうしようかと思った・・・

で俺はもとの木陰へと帰る・・・え？織斑達と遊べって？これ以上フラグ立ててどうすんの？というか幼稚園児と遊んで俺が楽しめると思うのか？PSPでアーマードコアやっているほうがまだましじゃね？というかそっちのほうがおもしろい。

って篠ノ之どうしよう。まずは俺が織斑を自分から奪った形になっってしまう。俺の計画では篠ノ之もついてきて2人には園児の輪に入ってもらうつもりだったのだが・・・これでは1人孤立してしまった。やヴあい　えーと・・・

「織斑が砂場で遊んでいるけど行かないのか？」

「ゆづどうしてなにいつてるの？ばかなの？しぬの？」

「馬鹿ではあると思うけど死ぬ気はないです。そしてごめんなさい。」

「フン」

それから篠ノ之は今までと同じようにPCのキーボードをたたき続けた。ただ今までのキーボードは流れるように音を奏でていたが、この日は力押しでたたいているような音が聞こえた。

それから次の日、今日も俺・織斑・篠ノ之の3人が木陰にいた。途中織斑は園児から声をかけられ遊ばないかと誘われた。その時、織斑が

「2りもいつ」

と織斑がいつてきた

「ちーちゃんがいうならいく」

よっしゃああああああ。これで篠ノ之は孤立しなくて済む。そして俺は篠ノ之からターゲットから外される。将来ISつくって世界征服しようとするればできるからなこいつ。

そして、俺は安心して日々を寝て過ごすことが……」きむらぐんもきてよ」「……え？」

「Why?」

「え?」

「声かけたのって篠ノ之とそっちの子だよな？」

「ちがうよ。たばねちゃんときむらくんだよ？」

これ以上フラグを立ててはいけない、そんな気がする。

「えーと、これからお昼寝しないと俺は一日の睡眠時間20時間を達成できん」ちーちゃんのいうことはぜったいな、ついてこなかったらつぶすよ？」はい遊びましよう・・・」

なんでだろう白い悪魔がいた気がする。

んで、かくれんぼをすることになった。

参加者は園児13人（俺も含めて）で鬼は織斑とさっきの声を掛けてきた園児そして現在スタートから18秒経過、あと12秒のうち隠れなくてはならない。

よし木の上か屋根の上に登ろう、そうすれば見つけずらいさらに木なら昼寝できるし、屋根の上なら日向ぼっこだ。ということでも木陰で寝ていたので屋根の上に登る。

え？どう登るのかって？この幼稚園2階建てでハシゴが2階の壁

についてある。しかし危険防止のため園児には手が届かないが、俺は足を鍛えているため跳躍で手をハジゴに引っ掛けることが可能である。3つ目の能力で足だけは鍛えていた成果が今出た。そしてのぼって……

篠ノ之がいた。

「どうやって登ったの……」

「そっちこそどうやってのぼってきたの？」

「跳んで」

「あっそ、でもここはわたしのかくれば。どっかいけ」

しかたない 物陰にでも隠れるとしようかなと思ってハシゴを降りはじめ……「ちよっとまった」なんか声かけられた。

「なに？」

「……なんでおこらないの？」

「何に對して？」

「たいていバカついていわれたらおこるでしょ」

「本当のことじゃね？」

「じかくがあるの？」

「それもあるが、篠ノ之が俺をバカって思っているならそれが俺の存在ってことになるんだろ？」

「じゃあ、あんたはわたしをどうおもってるの？」

「うーん・・・織斑には心を開いているけどそれ以外の人はどうでもいいって感じな人」

「ちがうよ」

「そうなのか？」

「わたしがこころをひらいているのは、ちーちゃんのほかにほっきちゃんといっくんだよ」

あれ？もう一夏と暮って生まれてんのか？これがアテネの言っていた原作とは違ったことが起きるといっことはこのことだろう。

「っそ」

「なにそのへんじ」

「いや俺関係ないじゃん」

「そうだけど、であんたはあたしにばかとおもわれたままでいいわけ？」

「べつにいいよ。そういう風に見られるのが嫌になったら、変えていけばいいだけだと思うし。大変そうでやりたくないけど。」

そう言い終わったとき下から「きむらくんみーっけ!」って言われた。

そういえばかくれんぼの最中だったな…

「あんたのせいでわたしまでみつかるじゃない!」って篠ノ之が大声をだしてしまつて「そこにたばねちゃんもいるんだ できてー」って織斑の声が聞こえた

「あんたのせいでみつかったじゃない」

「見つかるのが嫌なら出てくるなよ」

「ちーちゃんがでてきてーってでていくしかないよ」

どんだけ百合なんだお前は

そして、せんせいに屋根は落ちることがあるからもう登るなどお
しかりを受けた

帰り道に篠ノ之から蹴りをくらうはめになってしまったのは不運
だと思っ

幼稚園の日々(後書き)

んー 篠ノ之束どうしようかねえ…

なんかツンデレ化してきた

幼稚園の日々 2

今日も木陰の中で寝ようとしていたのに織斑のやつ最近また俺を誘おうとしてきた。

あの日から、遊び仲間が増え笑っている姿をよく見かける。あーやだやだ。

え？何がいけないかって？

だって、子供達って相手にすると疲れてくれんだじえ？例えば、最初のうち熟語やらことわざやら知っている言葉（子供達はまだ覚えていない）を言って言葉が通じなかったり、それなに？って言われていちいち説明するのがメンドクサイ。

篠ノ之の方は織斑とは遊びたがるが他の子たちとは遊びたがらない。で、子供たちの人間関係を崩すわけだ。

あそこから、関係を作るのは難しい、「嫌な奴」というレッテルを貼られていると思う。もともともかもしれないが。

どうしようか？

で今の時間はお絵かきであつたりする。

俺は前世の記憶があるから、ガンダムやらアーマードコアの機体やら書いていたりするわけだが脳内に、数式やらなんかよくわからないイメージが出てきたりする。たぶんこれが開発チートの能力なのだろう。で紙の裏側にその数式やらイメージやら書いている。

「なにかいてるの?」といって紙を覗いてきた織斑が言う。俺は書くのに夢中で聞いていない、今のうちに書いておかないと忘れてしまうのでは?と思うしやっぱあこがれるかなあ

「すごいもじがおおいね　ねえたばねちゃんなんてかいてあるのかわかる?」

「……………」　「黙り込む篠ノ之

「たばねちゃん?」

「……………」　「おい」

俺は書くのに夢中で聞こえない

「……………」　「おい!」

俺は書くのに夢中で聞こえない

「……………」　「おい!」

「!……!」

俺は書くのに夢中できこえろ」パンツ」

「いてっ」

ハリセンで叩かれた。なんでやん

「なに？」

「これあんたがかいたの？」

「そうだけどなに？」

「もっとみせてもらっていい？」

「いいけど……」……あ やべみせちゃったよ さすがにこの歳では篠ノ之もわからないだろうと高をくくっていたが、こいつ原作じゃ天才なんだ。今書いた数式やイメージがこいつには分かってしまう可能性がある。というか真剣に見ているのは分かっているのだから」

一 波乱ありそうな予感 大丈夫か俺？

幼稚園の日々 2 (後書き)

今回少なかったかな？

小学校へy

前の話からいろいろと篠ノ之が話しかけるようになってきて、原作介入確率が高くなってきあがった。

メンドクセエー

さらに1学年違うから、幼稚園に残ろうとするは卒業式は潰そうとするは・・・止めるのがきつい。それで、卒業してからも幼稚園で待ち受けて一緒に帰ろうとする・・・ハア

それで小学校は別にしようとか家より離れた学校選んだら、あの糞野郎（この場合糞女か？）が工作しあがって同じ学校になってしまつた・・・

入学式何があつたか聞かいかい？聞きたい人は聞いてくれ（もしくは読んでくれ）

sideアキラ

今俺は今年から入学する学校の体育館にいる。

そう、あの天才（天災）のいる学校だ。

まあ、かかわらなければどうということとは・・・というか登校拒否していいだろうか。前世じゃそれなりにまじめに学校に通っていたが。登校拒否しているニート達の気持がわからなくもない。鬱だわ入学初日から・・・

で、目の前に広がっている光景がすごい。花火がバンバン飛んで、ラッパが窓が揺れているほどの大音量で鳴り響き、さらに大抵「入学おめでとう」とか書いている看板が「入学おめでとうーあつくん」とか赤いペンキで乾く前につるしてしまったのかとところどころ垂れているのが書いてある。もう血で書いたんじゃないかね？ってぐらい赤かった。時間がたつにつれ黒ずんでいったけど・・・血じゃないよね？

で、そんなことをするやつは俺の知っている中で1人しかいない、
というか思いつかん。

「あつくうううううん——————！！！！！！」

なんか篠ノ之が世界記録変えられる速度で突っ込んできた。それに
対して俺は篠ノ之の腹をなぐってやる。

(。o。c = (— ;

「ぶぎゃあああああああああああああああああああああ」

顔文字からはわからんだろうがまあ世界チャンプ候補のボクサーのパンチぐらいだと思ってくれ、なんか真似してたら身に付いた。

「ひどいよあつくん！ハグだよハグ！おめでたいことがあったら親しい人とハグするのは常識だよ！あつもしかしてあつくんはキスがおのぞm」「ブルルルアアアアアアアアアア！」「ゴッフ」

「何がおめでたいの！？血みたいな字でおめでとうと書かれてもちつとも嬉しくねエよ！他の子怯えてるし、うるさいし、迷惑千万だろ？！そしてハグって欧米かよ！」

「なかなか古いネタを使ってくるねあつくん！！」

もう一度殴って篠ノ之を沈黙させ、入学式は、看板やら花火やらを撤去して開催された。

ちなみに篠ノ之は織斑からO H A N A S H I されたらしい。

「東、どうして放課後まで待てなかった」

「だってー」

「放課後になったらお持ち帰りしようと言ったのは東だぞ？そしてお持ち帰ったら」

「ちーちゃんと東さんの魅力であつくんをい ち ころ」

それからまた篠ノ之は気絶したとか「やめてくださいすみません
でしたスイマセンデシタスイマセンデシタスイマセンデシターー
ー」とかうわごとをつぶやいていた。

小学校へy（後書き）

今週から研修です。

次は12月いこうとなるだろうかと・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7469y/>

ISに変革者・・・の怠け者

2011年11月27日12時48分発行